デザインの源流

W・モリスの仲間たち

- E.バーン・ジョーンズ
- D.ガブリエル・ロセッティ
- J.エバレット・ミレー
- W.ホルマン・ハント
- ウィリアム・モリス
- ジェーン・モリス

産業革命と市民革命による資本主義社会への変革の流れは、物質的な繁栄社会をもたらしましたが、工業化社会の人々が抱える精神的あるいは環境的弊害に、反省と批判を含む社会思想や芸術運動の新たな潮流を生み出す事となった。

● ウィリアム・モリス　1834年～1896年

1861年 バーン・ジョーンズ、ロセッティらとモリス＝マーシャル＝フォークナー商会を設立、日常の生活空間の美化・豊かさを求めて＝アーツ・アンド・クラフツを謳いデザイン運動の先駆けとなった 。

＝デザイン運動の母体＝

《ラファエル前派》

1848年ロセッティ、ジョン・エバレット・ミレー、ハントらを中心に結成された英国の芸術家グループ。ラファエロ以前の初期イタリア画家の伝統と技法への復帰を提唱、中世の敬虔な宗教性を絵画的に再現することを理想とし、アカデミズムに対抗した。
ラスキンがこの運動を支持したのをはじめ、モリスやバーン・ジョーンズに影響を与えた。

《ジョン・ラスキン》1819年～1900年

英国の批評家。ロンドンのブドウ酒商の子。オックスフォード大学卒。父とともにヨーロッパ各地を旅行。ターナーの弁護のために書き始めた「近代画家論」1843年～1860年、ゴシック美術を再評価した「建築の七灯」1849年「ベニスの石」1851年～1853年などを書き、ラファエル前派を支持。産業主義に対して美の再生を主張し、次第に社会への関心を深め「この最後の者たちに」1862年、「胡麻と百合」1865年など警世的論文を書いた。

《ウィリアム・ブレーク》1757年～1827年

英国の詩人。画家、彫版師として生計を立てながら詩を書く。抒情詩集「無心のうた」1789年と「経験のうた」1794年によって、人間や世界における対立する二面を歌い、また散文の「天国と地獄の結婚」1790年では因習を攻撃しつつ、二元的世界のより高次の合一を求めた。以後「ミルトン」1804年～1808年、「エルサレム」1804年～1820年など〈予言書〉と総称される諸作によって独自の神話世界を構築した。作品は銅版画に彩色する独特の画法によって、本文・さし絵とも自身で印刷した。ほかにも「ヨブ記」「神曲」のさし絵を残し、その幻想的で装飾性に富む画風はラファエル前派やアール・ヌーボーに影響を与えた。